

まちひとしごと

Vol. 36

株式会社あおやま商店

代表取締役 あおやま 青山 てつや 徹也 さん

これからも みんなの笑顔が生まれる場所に



55 年もの間、俱知安町で多くの
の人々に愛され続けた商店
『三条市場』は、昨年6月、周囲
に惜しまれながらも閉店した。
この三条市場を営む両親のもと
に生まれた青山徹也さん。働く両
親の姿を間近で見てきた青山さん
は、幼い頃から、その姿に自らの
将来を重ねていたという。
高校卒業後は、さまざまな経験
を積もうと、岩内町の鮮魚店で働
いた他、道外で生鮮食品とは異な
る職種も経験。2008年に俱知
安へ戻ってからは、三条市場南支
店で青果部門を担当する傍ら、青
年会議所の役員も務めたことは、

これまでとは違う目線で町を見る
ことにも繋がったという。

「三条市場が長く続けて来られ
たのは、多くの方の支えがあった
からこそです。これまで店を守り
続けてきた両親やお世話になった
お客さまのためにも、自分がこの
店を残していかなければならない
と思いました」

そして、三条市場閉店の翌月、
青山さんは南支店の場所へ、新た
に『あおやま商店』の営業を始め
た。

お客さんから「ありがとう」と
言われることが多かったというか
つての店。それは、店内や従業員
の雰囲気は温かく親しみやすいも
のだったからだろう。青山さんも
また、その良さを引き継ぎ、従業
員同士笑顔で楽しく仕事ができる
環境を大切に、お客さんにとって、
親しみやすく入りやすい雰囲気づ
くりを目指す。

現在の従業員数は、販売や配送
など合わせて9人。そのうちの半
数は女性だという。

「女性ならではの細やかな気遣
いや温かい接客は、自分にはな
かなかできないこと。性別を問わず
従業員それぞれが自分のライフス
タイルに合わせてながら働ける環境

を整えることで、より良いサービ
スの提供につながればと考えてい
ます」

現在の客層は、三条市場が営業
していた頃からの常連をはじめ、
お年寄りが多いが、冬になると外
国人が大幅に増えるという。俱知
安町や近隣で採れた新鮮な野菜
は、日本人のみならず外国人から
も人気が高い。

「町並みや暮らす人々、そのラ
イフスタイルなどは変わりますが、
いつの時代でも雪が多いこと
と農業が盛んであることは変わり
ません」

店の代表という立場になって、
両親の偉大さに改めて気づいたと
いう青山さん。いつかは、野菜の
生産から販売、加工まで携わって
みたいという夢を持つ。時代の変
化を捉えながら、変わらないもの
を大切にする一方で、地域から愛
される『あおやま商店』へとさら
に成長を遂げることだろう。

※まちひとしごとは不定期連載です